

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0091号
護國青年會議機関紙 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成24年5月5日

小沢無罪、消費増税と政局の行方は…



勝栄二郎



谷垣禎一



輿石 東



野田佳彦



小沢一郎



仙谷由人



前原誠司



岡田克也



大島理森



森 喜朗

先ず上の写真をご覧ください。野田佳彦、小沢一郎、輿石東、勝栄二郎、谷垣禎一、仙谷由人、前原誠司、岡田克也、大島理森、森喜朗の2009年総選挙のマニフェストを楯に、野田の前に立ちかかった。120人とも言われる

小沢一郎元民主党代表の資金管理団体「陸山会」の土地購入をめぐる事件で、強制起訴された小沢被告の判決公判が先月26日、東京地裁で開かれ、大善文男裁判長は無罪を言い渡した。この判決が政局に与える影響は大きく、幹事長の輿石は無罪判決なら党員資格停止処分を前倒しで解除する意向を示しており、野田が政治生命を賭けるといふ消費増税関連法案の成立の行方と、互いの存亡を賭けた権力争いは予断を許さない情勢となった。故川島正二郎元自民党副総裁の言葉を借りれば、まさに「政治は一寸先は闇」である。

小沢グループの抵抗は、野田には手に余るものがあり、そのうえ輿石は、大型連休明けにも小沢の処分を解除すると言明している。そうなる小沢の存在感の高まりグループの勢いは増すばかりとなる。一方でその動きは、別の動きに対しても強い影響を与えることとなる。即ち野田民主の谷垣自民への傾斜である。
財務省が生んだ「増税双生児」
野田は今国会で消費増税を通さなければ9月の代表選での再選はあり得ない。谷垣も解散総選挙に追い込まなければ、9月の総裁選でクビが飛ぶ。というところは両者にとっての最高のシナリオは「今国会で増税法案を通して解散総選挙を行う」というものだ。
当然のことだが、法案を成立させるには衆参両院の可決が必要となる。小沢グループの抵抗は想像以上に強く、谷垣自民を取り込まなければ法案は通らない。野田にとって好都合なことは、もともと谷

垣と野田は財務相が生んだ「増税双生児」と揶揄されるほど強い増税志向を共有している。ここに着目した勝は、自民党内のゾンビとも言われる森喜朗元首相と大島理森副総裁に白羽の矢を立て「話し合い解散」への協力を呼び掛けた。勝の暗躍が功を奏して、森や大島の長老組が解散の約束と引き換えに増税に賛成する「話し合い解散」を模索し始めた。これは財務省や勝にとつて、政界を代表する「決められない政治家」の野田や谷垣などより遥かに頼りになる援軍である。その援軍を得た財務省が次にやることは、野田の尻を叩いて解散を決断させることである。そうなれば、小沢グループが造反しようと、自民党の賛成を取り付け、法案成立への展望が開けてくるからだ。

与野党ともに役者不足

しかし、そうは問屋が卸さないのが世の中である。大島の交渉相手となっているのは副総理の岡田である。この岡田に大きな問題がある。人間、正直なことは素晴らしいことだが、バカが付くと、呆れてしまうことがある。原理主義者の岡田のバカ正直は有名である。魑魅魍魎が跋扈する政界では、正直に表に出していい話と、そうでない話を使い分け、時には平然と嘘をつく、そのくらいの強かさが必要だ。今回の交渉は、総理の専権事項の解散権を拘束する「話

し合い解散」が主題である。バカの上に超が付くほどのバカ正直で、融通の利かない岡田では纏まるものも纏まらない恐れがある。では民主党内に岡田以外に誰がいるかとなると適任者は見当たらない。言うだけ番長の前原や、クズ弁護士仙谷などは論外であり、そもそもこいつ等の言うことは、野田が信用しないだろう。同じ様なことは自民党にも言える。谷垣が信用しているのは、川崎二郎元厚労相や田野瀬良太郎幹事長代行であり、森や大島は信用されていない。だが川崎や田野瀬では老獪な交渉となると、心許ないものがある。消費増税法案だけでなく政治が一向に前へ進まないのは、与野党、特に与党民主党の人材不足、役者不足が大きな原因である。

そうは言っても野田が決断できるか否かが最大の問題なのである。自民党の増税賛成を受けて「話し合い解散」に乗るなら小沢グループの造反は避けられない。小沢はすでに政府や党の役職辞任というカードを切ったが、今回の判決で政治的求心力を取り戻し、消費増税反対署名運動に拍車をかけたり、代表選出馬など第2、第3のカードを切ってくることだろう。野田が自民党を抱き込んだの法案成立を目論むなら、小沢は造反離党した上で内閣不信任案の提出も視野に入れている。そうなれば

自民党にも大きな影響を及ぼすことは必至であり、自民党が造反組と連携して倒閣に走ることが充分予想できることだ。

小沢復権が現実的になった今、野田が「話し合い解散」という路線を選択すれば、内閣崩壊の危機に直結する。果たして野田にそんな政治決断をする度胸があるか甚だ疑問である。

政治は一寸先は闇

野田は「命を賭ける」と言った己の決意が本物で、増税実現が大義であると信じるならば、自民党と手を組んで増税法案成立を目指せば良い。それがトリガーとなり解散総選挙になれば、国民が次の望ましい政権を選択する。そんなプロセスを通じて捻じれに捻じれた日本の政治が基本政策を軸に再編され、正常化する事になれば国民にとつ



先帝陛下を偲んで

皇紀2672年卯月29日午前9時、一点の曇りもない紺碧の空の下、御陵の参道に一歩足を踏み入れると、そこには世俗を寄せ付けない神奈備があった。先帝陛下がこよなく愛したヒマラヤ杉は、天高く聳え立ち、時折、梢からヒヨドリさえずりが聞こえる。一定のリズムで玉砂利を踏む音が、辺りの静けさを一層際立たせ、愚身の背筋を伸ばしてくる。激動の昭和を国民と共に生き、疲弊した国民に夢と希望を与え給うた先帝陛下は、迷走する日本の現状をどのようにお考えだろうか：私利私欲に走る政治家の現状をお嘆きになられているに違いない。「日本は毅然とあれ」この願いを「昭和の日」に託し、この日が先帝陛下の御遺徳を次世代に語り継ぐ日となることを切望する。

● 祝祭日には国旗を掲げましょう

編集人・戸出蒼流

て願ってもないことである。しかし残念ながら野田は決断できない無能な政治家である。未だ嘗て野田は、大きな政治決断をした試しがない。消費税引き上げ、原発再稼働、環太平洋経済連携協定(TPP)問題など重要課題への対応は、すべて震が関の判断に従い、官僚の担ぐ神輿に乗ってきただけだ。想定通り野田が決断できないとなると、増税と解散はセットと捉える自民党が法案に反対し成立の見通しは立たなくなる。その場合、衆院での採決を大幅に先送りするか、採決そのものを諦め、継続審議としなければならぬ。いずれにしても決着までには相当な紆余曲折があることは間違いない。小沢無罪判決は、政界のパワーバランスを破壊し、一寸先を闇とした。

野田は、1月の施政方針演説で「日本再生元年となるべき本年、私は何よりも、国政の重要課題を先送りしてきた『決められない政治』を脱却することを目指します」とほざいた。できぬならやればいい。この期に及んで「決められない」と言うのならでこの悪い漫画と同じだ。「影の総理」と呼ばれる勝が2年間かけて、教育してきたのが野田である。泥沼のような自民党から勝が掬い上げた泥鰌は、2年の間に醜く肥え太り、食べ頃となった。大物事務次官の最後の仕事は、増税色に染まった泥鰌を国民に踊り食いさせることである。

編集人

